

瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	三浦正二郎	参加者氏名	
-----	-----	------	-------	-------	--

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	やりがいを持って働いたら瑞浪で		
実施事業 (Plan)	事業名	市内就職促進事業			事業内容	市内企業を対象とした合同企業説明会の開催や、企業ガイドブックを作成し、市内企業への就職促進と職場定着を図ります。		
	事業期間	H27～						
	重要業績評価指標	指標	制度による雇用者数(累計)					
		目標指標値	60人					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R2繰越予算額(千円)	R3予算額(千円)※現計
	一般会計	労働費	労働諸費	雇用促進費	5010210	合同企業説明会開催事業		1,069
	一般会計	労働費	労働諸費	雇用促進費	5010209	Web合同企業説明会開催事業(新型コロナ対策)	3,128	

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	18人	
投入コスト(千円)							K P I		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R2	6,169	5,900			210	59	60人	67人	
R2繰越分	1,593	1,590				3	60人	79人	
R3	123					123			
効果検証	実施状況(Do)	令和2年度に制作した企業紹介動画を活用し、令和3年4月～12月にWeb合同企業説明会を開催した。参加企業は43社。サイトアクセス総数12,930 動画閲覧数2,444回(繰越事業) 令和4年度(令和4年4月～)の合同企業説明会(Web)開催に向けて参加企業の募集を行った。							
	Ch e c k	実績値の分析	中京高校市内就職者4人のうち3人が説明会参加企業へ就職。瑞浪高校市内就職者8人のうち5人が説明会参加企業へ就職。						
		問題課題	有効求人倍率は、高い水準が続き人手不足の状況は続いているが、職種(業種)によっては、求職者のニーズと求人側のニーズのミスマッチが起こっている。より一層、市内企業と求職者のマッチングが重要となり、そのための企業の魅力、情報を伝えるための情報発信の強化が必要である。						
		得られたノウハウ	コロナ禍問わず、時間や場所に関係なく最新の情報が得られるWeb合同企業説明会は、非常に有効である。						
	具体的改善内容(Action)	企業紹介動画だけでなく、勤務時間や休日等働き方の情報、取得できる資格やスキルなどサイトから得られる情報を増やし、市内企業と求職者とのマッチングを促し市内就職促進と職場定着を図る。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	A	継続	引き続き高校生に限らず、一般の求職者も対象とし事業を行う。また、対面形式での合同企業説明会を望む声もあるので、学校と連携を取り開催を検討していく。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えないような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった -: コロナの影響を受け評価不可
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	商工課	担当課長	三浦 正二郎	参加者氏名	
-----	-----	------	--------	-------	--

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標4 協働の夢づくり			戦略	誰もがいきいき、まちづくりのまち	
実施事業 (Plan)	事業名	地域活性化施設等整備基金事業			事業内容	歴史的な建築物の改修等、地域を活性化する施設等の整備の資金に充てるため、地域活性化施設等整備基金を造成し、運用します。	
	事業期間	H30～					
	重要業績評価指標	指標	基金活用件数				
		目標指標値	1件				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R3予算額(千円)※現計
	一般会計	商工費	商工費	観光費	701042	地域活性化施設等整備補助事業	6,041

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	0件
投入コスト(千円)							K P I	
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値
R2	0						1件	0件
R3	6,020				6,000	21	1件	2件
効果検証	実施状況 (Do)	クラウドファンディングを実施し、地域活性化及びまちなみ景観づくりに取り組んだ事業に対し、必要な経費の一部を補助しました。令和3年度は、空き家となっていた古民家西森川家住宅を改修し田舎暮らしをまるごと体験できる拠点とする「西森川邸再生プロジェクト」、「国登録有形文化財旧森川善章家住宅を活かした古民家カフェ事業」の2事業に対して補助金を交付しました。						
	C h e c k	実績値の分析	「西森川邸再生プロジェクト」「国登録有形文化財旧森川善章家住宅を活かした古民家カフェ事業」の2件活用事業があった。					
		問題課題	制度の周知が十分でなく、活用のイメージがしづらい。					
		得られたノウハウ	制度を拡充したことにより、活用件数が増加したと考えられる。引き続き、活用事業は随時募集とし、活用事業者を広く募集する。					
	具体的改善内容 (Action)	制度を活用するために必須となるクラウドファンディングについて理解を深めるためセミナーを開催した。(令和3年度)引き続き、チラシやHPでの周知を行うと共に、活用事例の紹介をし活用促進を図る。						
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)			
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由	
	事業効果	A	継続	民間都市開発推進機構との拠出により基金を創設し、令和8年度が最終年度となっているため、引き続き継続していく。				
事業評価	◎							
総合戦略推進会議(意見)								

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えないような場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった -: コロナの影響を受け評価不可
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	農林課	担当課長	市原 憲	参加者氏名	
-----	-----	------	------	-------	--

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標1 魅力的な暮らしを創造する			戦略	やりがいを持って働いたら瑞浪で		
実施事業 (Plan)	事業名	農産物等直売所規模拡大整備事業			事業内容	精肉処理機能の強化、新たな衛生管理基準（HACCP）への取り組みが可能となるよう施設を改修します。また、瑞浪ポーノポークや加工品をその場で消費することが可能となる施設を建設し、瑞浪ポーノポークの年間売上高の増加を図ります。		
	事業期間	H30～R5						
	重要業績評価指標 K P I	指標	瑞浪ポーノポーク（精肉、ハム・ソーセージ）年間売上高（きなあた瑞浪）					
		目標指標値	22,500万円					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R2繰越予算額（千円）	R3予算額（千円）
	一般会計	農林水産業費	農業費	農業振興費	06010352	農産物等直売所規模拡大整備事業	1,800	58,233

2. 事業評価

							策定時実績（H30）	10,824万円
投入コスト（千円）							K P I	
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値（再掲）	実績値
R2	86,784	33,917			17,898	34,969	22,500万円	14,812万円
R2繰越分	1,617	1,610			7		22,500万円	15,652万円
R3	57,493	8,750			46,321	2,422		
効果検証	実施状況 (Do)	令和5年度に供用開始を予定しているバーベキュー場の施設用地を取得するとともに、施設の詳細設計を行った。また、ハム工房において、新型コロナウイルス感染症対策として換気を実施した際、適正な室温を保つことが困難であったことから当該施設内に空調設備を1基増設した。						
	（ C h e c k ）	実績値 の分析	瑞浪ポーノポークの精肉売上高は令和2年度比102%、ハム・ソーセージ等の加工品は114%となった。加工品の売上高は大きく増加しているが、これは直売所内で販売する委託製造品の売上増によるものである。					
		問題 課題	直売所来場者数は令和2年度比96%、ハム工房来場者数は78%と減少している。瑞浪ポーノポークの売上高は増加しているが、目標達成には来場者数の増加を図る必要がある。また、ハム工房の加工品販売額の内、インターネットによるものが数パーセントと低調となっている。					
		得られた ノウハウ	瑞浪ポーノポークの精肉処理設備は充足しているため、処理人員を確保することで、売上高の増加を見込むことができる。また、ハム・ソーセージ等の加工品については、都市圏の客層を確保できていないため、インターネット販売等を強化していく必要がある。					
	具体的 改善内容 (Action)	直売所北側にバーベキュー場を整備することで施設の魅力向上を図り、瑞浪ポーノポークの精肉・加工品など地元農畜産物の消費拡大に繋げる。また、ECサイトのPR活動、SNSを活用した情報発信を積極的に実施することで認知度アップを図り、インターネット販売を拡大する。						
評価	観点	担当課（1次評価）			総合戦略推進会議（2次評価）			
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由	
	事業効果	C	継続	農産物等直売所隣接地にバーベキュー場を整備し、瑞浪ポーノポークの精肉、ハム・ソーセージ等の加工品の消費拡大を促進する。また、加工品の売上高増加を図るため、インターネット等を活用したPR活動を実施し、都市圏等の客層の確保を図っていく。				
事業評価	◎							
総合戦略推進会議（意見）								

事業効果	A：本事業は地方創生に非常に効果的であった（指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合） B：本事業は地方創生に相当程度効果があった（目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合） C：本事業は地方創生に効果があった（目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合） D：本事業は地方創生に効果がなかった（実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えないような場合）
事業評価	◎：事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○：事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった -：コロナの影響を受け評価不可
今後の方針（目安）	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し（改善）を行う（または、行った） ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	環境課	担当課長	山内 雅彦	参加者氏名	
-----	-----	------	-------	-------	--

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標2 快適な暮らしを実感する			戦略	満ち足りた暮らしをするなら瑞浪で	
実施事業 (Plan)	事業名	エネルギー利用最適化事業			事業内容	地球温暖化や災害対策のため、太陽光発電の自家消費を促し、家庭用燃料電池等の設置費の一部を補助します。	
	事業期間	H31~R5					
	重要業績評価指標	指標	制度による年間補助件数				
		目標指標値	30件				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R3予算額(千円)※現計
	1 一般会計	4 衛生費	3 環境費	1 環境総務費	04030117	エネルギー利用最適化事業	5,000

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	-	
投入コスト(千円)							K P I		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R2	4,100					4,100	30件	47件	
R3	4,972					4,972	30件	57件	
効果検証	実施状況 (Do)	令和3年度実績の内訳は次のとおりです。 ①蓄電池システム：39件 3,900千円 ②次世代自動車用充電システム：1件 100千円 ①と②に連携する住宅用太陽光発電システム：17件 972千円							
	C h e c k	実績値 の分析	太陽光発電システムの普及や災害時における電力確保、省エネへの関心の高まりから、蓄電システムや次世代自動車用充電システムで昨年度以上の成果が得られた。						
		問題 課題	環境省が公表する自治体排出カルテでは、令和2年度における本市の世帯数に対するFIT太陽光導入比は8.3%と、再生可能エネルギーの導入余地が多く残されている。						
		得られた ノウハウ	蓄電システムや次世代自動車用充電システム導入による省エネ化促進及び災害時における電力確保が期待できる。						
	具体的 改善内容 (Action)	太陽光発電と蓄電池でシステム構成した場合、令和3年度実績で約2,600千円と初期投資が高額である。このため、ライフサイクルコストから見た分析やCO2削減効果、また停電時の有用性など、工夫を凝らしたPRに努める。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	A	継続	広報等によりエネルギー利用最適化事業補助金のPRに努め、導入を促進する。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A：本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B：本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C：本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D：本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えない場合)
事業評価	◎：事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○：事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった -：コロナの影響を受け評価不可
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	生活安全課	担当課長	工藤 雄一	参加者氏名	
-----	-------	------	-------	-------	--

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標2 快適な暮らしを実感する			戦略	安心して暮らすなら瑞浪で	
実施事業 (Plan)	事業名	防災訓練実施事業			事業内容	区や組単位の小規模防災訓練の指導および支援を行い、市民の防災意識の向上に努めるとともに、地域の防災力の向上を図ります。 また、地域の防災リーダー等で組織する「みずなみ防災会」に交付金を交付し、同会の防災活動の活発化及び会員の資質向上を図ることで、地域における防災訓練の実施を促進します。	
	事業期間	H23～					
	重要業績評価指標	指標	防災訓練実施率(実施自治会÷全自治会)				
		目標指標値	100.0%				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R3予算額(千円)※現計
	一般会計	消防費	消防費	防災費	9010410	防災訓練実施事業	500

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	81.3%	
投入コスト(千円)							K P I		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R2	437	0	0	0	0	437	100.0%	100.0%	
R3	365	0	0	0	0	365	100.0%	100.0%	
効果検証	実施状況 (Do)	各地区の区長会で防災訓練メニューを配布し、訓練実施を依頼しました。広報誌で地域主体の防災訓練の必要性について啓発しました。 みずなみ防災会と連携し自治会、福祉施設や各種団体の防災訓練を実施しました。(訓練回数28回、参加人数426人) また、今年度は小里川ダム管理支所とも連携し、小里川流域浸水想定区域を活用した災害・避難カード作成講習を稲津町で実施しました。							
	C h e c k	実績値 の分析	令和元年度に実施した市総合防災訓練に全ての自治会が参加したため、防災訓練実施率を100%としています。						
		問題 課題	新型コロナウイルス感染症の影響で、各自治会が集まることを控えたため、自治会による防災訓練の申込み減少や申込み後の中止が相次ぎました。						
		得られた ノウハウ	みずなみ防災会と協力し、感染症対策を実施したうえで防災訓練を実施することができました。また、AIサーマルカメラやCO2モニター等の感染症対策器材を購入し、安心して訓練ができる環境づくりをできるようになりました。						
	具体的 改善内容 (Action)	R2年度から続くコロナ禍による防災訓練減少の対策として、少人数で集まっている福祉施設や各種協議会等に来訪し、短時間で人との接触のない防災講話を中心とした活動に切り替えました。それにより、R3年度は昨年度比で約60%増の防災訓練を開催することができました。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	A	継続	新型コロナウイルス禍を、「自分の命は自分で守る」自助の考えや、避難所を自ら選定し判断する分散避難を浸透させる好機と捉え、より一層の啓発活動に努めます。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えない場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった -: コロナの影響を受け評価不可
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した

瑞浪市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シート

担当課	企画政策課	担当課長	加藤 昇	参加者氏名	
-----	-------	------	------	-------	--

1. 事業概要

総合戦略体系	基本目標	基本目標4 協働の夢づくり			戦略	誰もがいきいき、まちづくりのまち	
実施事業 (Plan)	事業名	地域懇談会・市民アンケート実施事業			事業内容	市の施策や方針に対する市民の意見や要望、評価を把握するために、毎年、各地区や各種団体ごとに地域懇談会を開催します。また、毎年、数値目標の達成状況を確認するため市民アンケートを実施します。	
	事業期間	H26年度～					
	重要業績評価指標	指標	アンケート回収率				
		目標指標値	45.0%				
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	事業名	R3予算額(千円)※現計
	一般	総務費	総務管理費	広報広聴費	02010305	地域懇談会・市民アンケート実施事業	650

2. 事業評価

							策定時実績(H30)	35.7%	
投入コスト(千円)							K P I		
年度	決算額	国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源	目標指標値(再掲)	実績値	
R2	748					748	45.0%	44.7%	
R3	629				100	529	45.0%	44.5%	
効果検証	実施状況 (Do)	令和3年度は地域懇談会等を17回開催し436名の方に参加していただきました。また、第6次瑞浪市総合計画の評価指標となっている市民満足度調査を市民アンケートを通して実施しました。アンケート結果は、事業の評価や、施策に反映しています。							
	C h e c k	実績値 の分析	コロナ禍での開催であったため、令和元年度と比較すると136名参加者が減ってしまいました。アンケート回収率は、昨年度より0.2%減少しました。紙媒体の回答だけでなく、インターネットを活用し、いつでも気軽に回答できるよう工夫が必要です。						
		問題 課題	近年、地域懇談会への参加者数が高止まりとなっている。また、アンケート回収率が横ばいとなっている。						
		得られた ノウハウ	回収率向上に向け、親しみやすいアンケートとなるよう継続的な工夫改善が必要です。また、地域懇談会や学生との市長と語る会などにおいてご意見を伺い担当課が対応することで、よりよい行政運営に繋がっています。						
	具体的 改善内容 (Action)	令和4年度は、地域懇談会の開催だけでなく、各種団体との市長と語る会を積極的に開催し、幅広く意見を聴取します。また、アンケート回収率を改善するため、インターネット回答を併用します。							
評価	観点	担当課(1次評価)			総合戦略推進会議(2次評価)				
		評価	今後の方針	今後の方針の理由	評価	今後の方針	今後の方針の理由		
	事業効果	B	継続	地域懇談会や市長と語る会は、市民や企業、団体の方々から直接意見を伺うことができる貴重な機会であるため継続して実施します。 アンケート回収率傾向からインターネット回答の可能性について検討し令和4年度よりを実施します。数値目標(市民満足度)を定期的に調査することで、多様化する市民ニーズに対応したまちづくりの推進を図ります。					
事業評価	◎								
総合戦略推進会議(意見)									

事業効果	A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった(指標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった(目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) C: 本事業は地方創生に効果があった(目標値の達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) D: 本事業は地方創生に効果がなかった(実績値が開始前よりも悪化した、もしくは、取組として前進・改善したとは言えない場合)
事業評価	◎: 事業が地方版総合戦略のKPI達成に有効であった ○: 事業は地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった -: コロナの影響を受け評価不可
今後の方針(目安)	・事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる ・事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った) ・特に見直しをせず事業を継続する ・継続的な事業実施を予定していたが中止した ・当初予定通り事業を終了した